

授業科目名	社会福祉援助技術論		担当教員名	入江 実
必修/選択	選択 (/社会福祉主事任用資格)		開講学年・学期	1/2年 前期 (年間開講数 1講座)
科目区分	その他の資格取得科目		単位数	2単位 (時間)
施行規則に定める科目区分等			授業方法/担当形態	講義 / 単独
			特記事項	※実務経験のある教員等による授業 児童養護施設主任児童指導員としての実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。
授業の到達目標	(1)援助活動の基本となる円滑な人間関係の形成を図るための方法について理解する。 (2)利用者の人権尊重、権利擁護、自立支援等に配慮した社会福祉援助活動の意義及びそのあり方について理解する。 (3)社会福祉援助活動の原則、展開過程及び共通課題について理解する。 (4)社会福祉援助活動における専門援助技術の体系及び内容を理解する。 (5)社会福祉援助技術と専門職としての倫理を理解する。			
授業の概要	保育においても必要となる社会福祉援助技術に関して、テキストを通じてその基本理解を深める。また、実践現場での事例を交えて学習することで、より実際の内容が学習できるよう努める。社会福祉援助技術について、直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術に関して、その内容、原則及び展開過程などを学習する。また実際の実践現場における社会福祉援助技術の内容について、事例を通じて理解を深める。			
テキスト	「はじめてのソーシャルワーク演習」はじめてのソーシャルワーク編集委員会編 (ミネルヴァ書房)			
参考書・参考資料等	特に指定せず			
成績評価の方法	○参加意欲：25%○レポート等提出物：25% ○定期試験：50%			
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	1.授業のオリエンテーション及び導入講義 社会福祉援助を行うにあたっての基本姿勢			(1)
第2回	2.社会福祉と社会福祉援助技術			(1),(5)
第3回	3.子どもと家庭を取り巻く状況			(2)
第4回	4.社会福祉援助技術の沿革			(3)
第5回	5.ケースワークの定義及び機能			(3)
第6回	6.ケースワークの原則①			(3),(4)
第7回	7.ケースワークの原則②			(3),(4)
第8回	8.ケースワークの援助課程			(5)
第9回	9.グループワークの意義と機能			(3),(4)
第10回	10.グループワークの課程			(3),(4)
第11回	11.コミュニティワークの意義			(3),(5)
第12回	12.関連援助技術			(3),(5)
第13回	13.社会福祉援助技術の実践事例①			(2),(5)
第14回	14.社会福祉援助技術の実践事例②			(2),(5)
第15回	15.まとめ			
定期試験	筆記試験			
第16回				
第17回				

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
定期試験	筆記試験	